



輝け！北っ子

平成29年7月20日発行

夏休み特集号

発行責任者 紺野 宗作

夏休みには夏休みにしかできないこと

大きな事故もなく1学期が終了しましたことに感謝申し上げます。子どもたちが楽しみにしている夏休み。事故やけがのない夏休みにしてほしいと思います。ある民間教育出版社の調査によると約3割の子どもは、夏休みに規則正しい生活ができなくなってしまうそうです。私の子どもの時の夏休みは、お盆の3日間を除いて毎日ラジオ体操がありましたので、夏休みの時の方が規則正しい生活だったかもしれません。何よりもラジオ体操が終わったら1年生から6年生までみんな集まって三角ベースなどをして遊ぶのが楽しみでラジオ体操を休む子などいなかったような記憶があります。終業式ではそんな私の思い出話を引き合いにして、規則正しい生活の重要性を子どもたちに訴えました。

そして、子ども達の生活習慣が乱れないことを願って

夏休み 早寝 早起き 朝ご飯 いっぱい遊んで いっぱい勉強

というスローガンをみんなで唱えました。

また、40日もある夏休み。子どもたちには学校では味わえない様々な体験をしてほしいと思っています。キャンプなどで自然体験したり、地域の行事へ参加したり、図書館・美術館に行ったり、お盆行事で親戚の方とふれあったりと・・・子どもにとっては様々な体験をすることが成長につながります。夏休みにか味わえない有意義な体験をしてほしいと思います。

そして、夏休みと言えば 親も子どもも頭を悩ます自由研究。まずは、何をやったらよいか分からず悩むことも多いかと思えます。しかし、どんな子どもでも、興味や関心をもてるテーマは必ずあります。夏休みはたっぷり時間があります。じっくりじっくり考えることです。自分で調べたり、学んだり、まとめたりする経験や、完成させたことで得られる達成感は、他の学習にもつながります。終業式では、ある学校の4年生が、犬の糞の後始末のための使い捨てペーパースコップを、牛乳パックを利用して作った自由研究のお話をしました。このペーパースコップは、ある会社の人を目にとまり商品化され、小学生でありながら1年間で約1千万円の収入になった話をしました。草むらにあった犬の糞を見て、大人だったら「マナーの悪い飼い主だ」と思うだけかもしれませんが。子どもの発想は柔軟性があり、奇想天外です。そして、子ども達が進んで自由研究などに進んで取り組めるよう



(私も牛乳パックで作って見ました)

夏休み じっくりじっくり考えて 自由研究 発明工夫

というスローガンをみんなで唱えました。

*有意義な夏休みになることを願っています。そして、8月の始業式では、元気な子ども達の笑顔を楽しみにしています。